授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ　(CF202)			担当教員	井上　英也		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの類型
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。	課題レポート	10%
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。	授業への積極姿勢	30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。	授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル･旅館･観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。	プレゼンテーション	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

①　「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
②　「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
③　「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
④　「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する。
尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。

授　業　の　概　要

ホテルを支える従業員の仕事の内容を理解することを通じ、働くこと、キャリアを積むことの意義を考える機会とします。また数人のゲストスピーカーを招き、グローバルなキャリアについて学びます。個人・グループの研究成果はプレゼンテーションを通じて、成果を共有していきます。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、１コマ 45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。　指定図書：「ゴールド・スタンダード」ジョゼフ・ミケーリ

授業外における学修及び学生に期待すること

①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。
②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。
③「宿泊業論」･「ホテルオペレーション」･「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。
④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。

⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習ＩA を総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	（予習）シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）後期の個人目標を考えておく
3	宿泊部門の仕事Ｉ	現役の宿泊部長を招き、宿泊部門の仕事内容についての説明を受けた後、質疑応答により理解を深める	（復習）宿泊部門の職務記述書を読む
4	宿泊部門の仕事Ⅱ	宿泊部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	（予習）予め指示された宿泊部門の職務内容を理解する
5	料飲部門の仕事Ｉ	料飲部門の主だった職務を職務記述書から読み解くことにより理解する。	（予習）レストランの仕事を調べておく
6	料飲部門の仕事Ⅱ	レストランで業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	（予習）予め指示された料飲部門の職務内容を理解する
7	ウェディング部門の仕事Ｉ	ウェディング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	（予習）ウェディングプランナーの仕事を調べておく
8	ホテル試泊 福岡市内のホテルを試泊	福岡市内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 （ANA クラウンプラザ福岡　予定）	（予習）ANA クラウンプラザ福岡についてウェブサイトで調べておく
9	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	（予習）試泊した内容をまとめておく
10	セールス＆マーケティング部門の仕事	セールス＆マーケティング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	（予習）マーケティングの仕事を調べておく
11	管理部門（経理・人事）の仕事	管理部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	（予習）人事の仕事を調べておく
12	総支配人の仕事	現役の総支配人を招き、ホテルのリーダーとしての役割について説明を受けた後、質疑応答により理解を深める。	（予習）総支配人の役割を考えておく
13	キャリア・マップの理解とキャリア・パスの作成	ホテルのキャリマップを理解し、総支配人になることを想定したキャリア・パスを作成する。	（予習）キャリア・マップについて調べておく
14	国際人としてのキャリア	国際的に通用するキャリアを、ホテルの仕事を参考に考察する。	（予習）海外のホテルを一つ選択し、施設内容を調べておく
15	専門演習ＩＢのまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	（予習）グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ(CF202)			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：博物館・地域文化資源の巡検 博物館などの見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。	⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。	授業・調査への参加度	10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。	事前・事後学習	30%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。	調査における態度	50%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。	プレゼンテーション 勉強会での発表	10%
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。

授業の概要

この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

・書籍・文献調査の課題提示をポートフォリオで行う。

・勉強会を実施する。

・研究発表会を行う。

・研究成果レポートの作成と提出。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。

参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）

指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※見学・調査費用は実費とする。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の添削指導	添削された卒業研究を修正する。	予習：卒業研究の修正 復習：卒業研究の修正
15	前期課題の受理	後期のまとめとして、修正した卒業研究を提出する。	予習：卒業研究提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CA111)			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 後期においては、三川内焼と有田焼の比較を行う。この比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようにする。説明は、２つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。	④⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。	期末レポート	10%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。	期末レポート	25%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。	ゼミ内発表会 演習参加状況	35% 10%
協働・課題解決力	有田町でのフィールドワークの際、３年生と一緒に調査を行うことができる。	フィールドワーク参加	10%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。	演習への参加状況	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

１．評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。
２．フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）

授　業　の　概　要

（１）前期の学修成果をまとめ、大学祭での学術発表を行う。（２）有田町でのフィールドワークを行う。（３）有田焼との比較を行うことで、三川内焼への理解をさらに深める。（４）学修の成果を目に見える形にする。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、90 分です。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：指定しない。

参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。

指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器．吉川弘文館.

授業外における学修及び学生に期待すること

（１）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（２）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習)シラバスを読んでくる。(復習)後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	２年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）面談の準備。（復習）面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習）前期のレポート（紙媒体とデータ）を持参する。（復習）制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習)グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習)自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	（予習）発表の練習をしてくる。（復習）リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	（予習）発表の練習をしてくる。(復習）発表後の感想を、マナバに記入する。
7	有田焼の調査 1	①学術発表のふりかえり。 ②有田焼の概要、③有田町へのアクセス	(予習)配布された資料を読んでくる。(復習）調査結果を記録する。
8	有田焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象（窯元、観光施設）の検討	（予習）調査対象の候補を選んでおく。(復習）調査結果を記録する。
9	有田焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象（窯元、観光施設）の選定、②行程の決定	(予習)自分が希望する調査対象を選んでおく。(復習)フィールドワークの準備
10	有田町フィールドワーク	フィールドワークの実施	(復習)フィールドワークの調査結果をマナバに記入する。
11	フィールドワークのふりかえり 1	①フィールドワーク調査結果の共有	(予習)マナバに記入された調査結果を読んでくる。(復習)他メンバーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワークふりかえり 2	①有田焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。 ②プレゼンテーションの内容を、リーフレット（A4 版 2 ページ）にまとめる。	（予習）プレゼンの作成 (復習）見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワークふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション（３分間） ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	（予習）プレゼンの練習 (復習）プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習）目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)			担当教員	田中　誠		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの 類 型
・身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。	①⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。	・テスト	25%
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考･判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。	・受講者の発表	30%
コミュニケーション力	(1)基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。	(1) 受講者の発表 (2) 課題	25% 20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

１．毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
２．15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。
３．担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授　業　の　概　要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。　（コースの指定は特にしない。）
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。
参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ 』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
指定図書：『ことばと文化』 鈴木孝夫(著)、岩波新書。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がＮ1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	発表、オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の清書
3	to 不定詞を使いこなす	to 不定詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	if 節を使いこなす	if 節を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	知覚構文を使いこなす	知覚構文を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、ＰＣの活用など（レベル１）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	感情のこもった倒置	倒置を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	オブラートに包む否定表現	否定を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	時制を使いこなす	時制に関する表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	臨場感を伝える表現	臨場感を伝えるための表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル１）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	数量詞を使いこなす	数量詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	可算名詞、不可算名詞を使いこなす	名詞に関する表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習:英文 101-110 音読筆写
14	的確に質問する	質問する際の表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	小テスト、ディスカッション、まとめ	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ（CF202）			担当教員	中山　忠彦		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ＩA・ＩBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツ指導体験」を３大目標として、演習を展開します。ＩBでは、各種ワークを通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能・映像編集を習得します（メディアリテラシー）。様々なスポーツ体験と指導体験を通して、「する」「ささえる」観点からスポーツの意義の理解を深めます。遠隔授業にて実施する場合もあります。	①　②　⑤ ⑦　⑩　⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・スポーツの意義を説明することができる。	・課題レポート	30%
情報収集、分析力	・PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。	・作業課題	20%
コミュニケーション力	・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%
多様性理解力	・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。	・受講態度	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：40%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。
・メディアリテラシーの作業課題を評価する（評価比率：20%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。
・課題レポート（評価比率：30%）:「自らのスポーツキャリアと今後の活用」について評価する。第15回授業時にフィードバックする。
・受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。

授　業　の　概　要

本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ（指導）体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない
参考書：「スポーツトレーニングの常識を超えろ！」NPO法人日本トレーニング指導者協会(編)（大修館書店）ISBN：978-4-469-26859-1
参考書：「トレーニング指導者テキスト　実践編　改訂版」NPO法人日本トレーニング指導者協会(編)（大修館書店）ISBN：978-4-469-26754-9
指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

授業外における学修及び学生に期待すること
授業外における学習：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。 **学生に期待すること**：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・演習授業の進め方の確認 ・夏季休暇中の活動報告と今期の目標設定	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・前学期の省察を行い、目標を設定	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	コミュニケーションスキル	・コミュニケーションワーク（運動有能感と運動嫌い） ・メディアリテラシー（文字入力）	予習：運動有能感と運動嫌いについて調査する 復習：運動有能感を高めるための取り組み
4	新体力テスト①	・メディアリテラシー（文字入力） ・新体力テストの実施と記録	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：前期との比較を通して生活習慣の改善を図る
5	新体力テスト②	・メディアリテラシー（タイピング練習） ・新体力テストの実施と記録	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：前期との比較を通して生活習慣の改善を図る
6	トレーニング実践①	・コミュニケーションワーク（情報提供） ・メディアリテラシー（データ入力） ・トレーニング実践	予習：最新のトレーニングについて調べる 復習：トレーニング効果の確認
7	トレーニング実践②	・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（エクセル計算） ・トレーニング実践	予習：最新のトレーニングについて調べる 復習：トレーニング効果の確認
8	スポーツ体験①	・コミュニケーションワーク（交流） ・メディアリテラシー（エクセル統計） ・スポーツ体験（運動遊び）	予習：運動を楽しむための手法を調べる 復習：楽しい運動遊びの立案
9	スポーツ体験②	・コミュニケーションワーク（調和） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・スポーツ体験（レクリエーションスポーツ）	予習：レクリエーションスポーツの意義を調べる 復習：選択したレクリエーションスポーツの実践
10	スポーツ体験③	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（動画撮影①） ・スポーツ体験（競技スポーツ）	予習：競技スポーツの特性を調べる 復習：撮影した競技スポーツの映像を視聴
11	スポーツ指導体験①	・コミュニケーションワーク（調和） ・メディアリテラシー（動画加工） ・キッズ・ジュニアスポーツ指導体験	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
12	スポーツ指導体験②	・コミュニケーションワーク（共有） ・メディアリテラシー（動画編集） ・競技スポーツ指導体験	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
13	スポーツ指導体験③	・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（動画編集） ・競技スポーツ指導体験	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
14	トレーニング指導体験	・コミュニケーションワーク（コーチング） ・トレーニング指導体験 ※課題レポート（提出期限：15 回授業の前日）	予習：トレーニングプログラムの立案 復習：パフォーマンス向上のためのトレーニング実践
15	総合復習	・課題レポートのフィードバック ・総合復習	予習：これまでの活動を振り返る 復習：積極的なスポーツへの関わり

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ　(CF202)			担当教員	落合　和昭		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの類型
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。③架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	ホテルにおける商品や価格・販売などを理解し、相互に及ぼす影響に関しても想像することができる。	課題レポート	10%
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、感染症対策などホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。	授業への積極姿勢	30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分のプランや企画を説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。	授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行客など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。	プレゼンテーション	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

①　「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
②　「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
③　「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
④　「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する

授　業　の　概　要

・ホテルの特徴を活かすため、セールスやマーケティングの概要を学ぶ。
・ホテルの管理部門についても理解する。
・ホテルビジネス実務検定（1級）の問題に取り組む。
・総括として近隣のホテルに試泊し、現職のスタッフと交流して理解を深める。

また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：ホテルビジネス「基礎編」（一般財団法人日本ホテル教育センター）　　指定図書：演習時に指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

①　ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。
②　ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。
③　「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習ＩＡ を総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	（予習）シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）後期の個人目標を考えておく
3	ホテルの管理部門①	教科書および職務基準書に基づき、管理部門の主な仕事を理解する。	（予習）管理部門の仕事に関する質問を考える。
4	ホテルの管理部門②	ホテルビジネス実務検定の管理部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
5	ホテルの経理部門①	教科書および職務基準書に基づき、経理部門の主な仕事を理解する。	（予習）経理部門の仕事に関する質問を考える。
6	ホテルの経理部門②	ホテルビジネス実務検定の管理部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
7	ホテルセールス＆マーケティング①	ホテルのマーケティング活動に関する説明を受け、質疑応答を行う。	（予習）セールス＆マーケティングに関して調べておく。
8	ホテルセールス＆マーケティング②	ホテルのセールス活動に関する説明を受け、質疑応答を行う。	（復習）架空の新規セールス＆マーケティングプランを作成する。
9	ホテルセールス＆マーケティング③	架空の新規セールス＆マーケティングプランを発表し、意見交換を行う。	（復習）架空の新規セールス＆マーケティングプランを完成する。
10	ホテルセールス＆マーケティング④	ホテルビジネス実務検定のセールス＆マーケティング部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
11	ホテルビジネス検定模試	ホテルビジネス実務検定１級模試を行う。	（予習）対象範囲の復習をする
12	ホテル試泊	これまでの学習の総括として、近隣ホテルに試泊して幹部スタッフと意見交換を図る。	（予習）試泊予定のホテルについて調べておく。
13	ホテル試泊プレゼンテーション①	試泊を通じて学んだ内容について、営業の改善提案を含めたプレゼンテーションを行う。（１回目）	（予習）プレゼンテーションの準備を行う。
14	ホテル試泊プレゼンテーション②	試泊を通じて学んだ内容について、営業の改善提案を含めたプレゼンテーションを行う。（２回目）	（予習）プレゼンテーションの準備を行う。
15	専門演習ＩＢのまとめ	学んだことをとりまとめ、発表する。	（予習）発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	**専門演習ＩＢ(CF202)**			担当教員	乙須　翼		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書、文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを、**「子育て・家族・ジェンダー・労働から世界を見る」**とし、テーマに関わる国際比較のデータや文献の情報収集、講読、プレゼンテーションなどの作業を進める中で、各受講者が日本の子どもや家族、ジェンダーや労働に関する価値観の特徴を理解すると共に、世界の国の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。	①⑤⑥⑧⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。 テーマに関する情報を文献やインターネットなどを用いて収集することができる。	レジュメ 発表と議論	15% 15%
コミュニケーション力	発表のレジュメやスライドを指定された形で作成し、プレゼンテーションをすることができる。 特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。	レジュメ 発表と議論	20% 30%
協働・課題解決力			
多様性理解力	日本の子どもや家族、ジェンダーや労働に関する考え方について、その基本的特徴を説明することができる。 日本と他国を比較し、その違いや共通点を背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。	レジュメ 発表と議論	10% 10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。

授業の概要

授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 受講者全員で「子育て・家族・ジェンダー・労働」に関連して国際比較をしてみたいテーマまたは国を決定する。2. テーマまたは国に関する基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成したテーマまたは国に関するデータや資料を概観し、国による違いや共通点を大まかに理解する。4. 各自興味を持った国またはテーマについて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない　指定図書：牧野カツコ他『国際比較に見る世界の家族と子育て』(2010)
参考書：汐見稔幸編著『世界に学ぼう！子育て支援』(2003)　内閣府『男女共同参画白書（令和５年版)』(2023)
ルドヴィクァ・ガンバロ他著『保育政策の国際比較』(2018)
小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』(2019)

授業外における学修及び学生に期待すること

※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。
※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。
・教職課程を履修している学生　　・将来指導者等として子どもに関わろうとする学生
・子どもや教育の問題について関心のある学生　　・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味がある学生
※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する学生）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予）シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前学期の省察と本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予）発表レジュメの作成 復）レジュメをもとに議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予）発表レジュメの作成 復）レジュメをもとに議論を振り返る
5	論評会③	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予）発表レジュメの作成 復）レジュメをもとに議論を振り返る
6	興味関心を高める	各自興味を持った世界の子育て・家族・ジェンダー・労働に関する新聞記事を紹介する。また本演習で国際比較をしてみたいテーマまたは国を受講者全員で一つ決定する。	予）新聞記事の収集と発表準備 復）議論を振り返る
7	基礎知識の確認をする①	決定したテーマまたは国に関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予）テーマまたは国に関する基本事項の整理 復）テーマまたは国に関する基本的な語句や事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	決定したテーマまたは国に関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予）テーマまたは国に関する基本事項の整理 復）テーマまたは国に関する基本的な語句や事項の復習
9	興味関心を深める①	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予）テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復）データの見直し
10	興味関心を深める②	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予）テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復）データの見直し
11	報告手法･情報収集の方法を習得する	報告手法（担当者の割り振り、レジュメやスライドの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など）を確認する。情報収集（文献・インターネット等）の方法について理解し、情報収集を始める。	予）プレゼンテーションの手法について調べる 復）報告手法の確認
12	報告の準備をする	報告手法について再度確認し､担当テーマまたは国について報告する準備をする。	予）資料の収集と報告準備 復）報告準備の継続
13	報告・議論する①	担当者がレジュメやスライドを用いて担当テーマまたは国について報告し､全員で報告内容について議論する。	予）資料の収集と報告準備 復）議論を振り返る
14	報告・議論する②	担当者がレジュメやスライドを用いて担当テーマまたは国について報告し､全員で報告内容について議論する。	予）資料の収集と報告準備 復）議論を振り返る
15	報告・議論する③	日本と世界の子ども・家族・ジェンダー・労働に関する価値観の違いについて本演習で学んだことを整理し、各自発表する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予）発表準備 復）議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)			担当教員	尾場　均		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。資格取得を目指す。(コンピュータ関連・色彩検定・ビジネス著作権・インターネット情報士など) 国際観光学科で学んだ観光に関する知識を活かし実践的な情報発信の能力と情報における判断能力を身につける。佐世保市中心市街地および佐世保市のまちづくりに関する調査活動やＩＴ関連の教育活動などを実践する。昨年度は FM 放送の番組に加え、渋谷・佐世保短編映画祭の実践や地域活性化イベントを実施した。	⑥　⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。	課題レポート（ポートフォリオ）	10%
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。	課題レポート（ポートフォリオ）	30%
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。	課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる	授業態度・活動への参加度	10%
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。	文献を要約	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う

授業の概要

インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。
企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。
まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：なし
参考書：なし
指定図書：『伝える力 2』PHP ビジネス新書

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。
情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	ポートフォリオ・Web 登録と演習	ポートフォリオ・Web の登録と演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNS の登録とメールアドレスを準備
4	インターネット基礎	インターネットの仕組み　検索術・画像・データ管理	予：通信機器を準備
5	テーマを決める	地域活性化のテーマをグループで決定して目標を明確にする。	予：地域活性化事業の事例を集めること
6	検定試験への取り組み	多種多彩な検定試験へ向けての演習（実践系の資格）	予：規定様式の書式や設定を事前に確認
7	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
8	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
9	イベント計画	テーマに関するスケジュールの制作	予：開催日から逆算してスケジュールを決定する
10	イベント準備	イベント実行のための調査	予：開催場所の調査・確認
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
12	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
14	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
15	成果発表	情報発信メディア（TV,ラジオ、インターネット）を通じて成果を発表する。	予：発表準備・担当を明確にする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ　(CF202)			担当教員	佐野　香織		
展開方法	演習	単位数	1　単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の学びのうち、多様な人々と生きていく社会をつくることばを考え、発信する力を養うことを目的とする。	①④⑤⑥⑧⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	ことばをつくるための手法（インタビュー、分析、表現方法）の基礎知識を理解することができる。	インタビュー記事	15　%
情報収集、分析力	身近な課題の情報収集をし、分析、考察することができる。	資料作成 事前・事後学習	10　% 20　%
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。	インタビュープロジェクト 発表	45　%
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。	相互評価 自己評価	10　%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

本演習で学んだ基礎知識に関する理解と考察（事前・事後学習、インタビュー記事）で 45%、インタビュープロジェクトで 45%、授業で行うグループディスカッション、活動参加貢献、協働での学びへ評価（自己、相互評価）で 10%、で評価する。各課題のフィードバックは授業内で行う。

授業の概要

本演習では、多様な人々と生きていく社会をつくりながら考える実践をしていきます。実際に社会をつくりながら実践をしている人にインタビューをすることを通して、「聞き取る」こと、「発信すること」を経験し、社会にことばをつくることを考える。
スケジュールは変更することがある。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：桜井厚 『インタビューの社会学』せりか書房　適宜ハンドアウトを配布する。
参考書：適宜紹介する
指定図書：桜井厚 『インタビューの社会学』せりか書房

授業外における学修及び学生に期待すること

このゼミは、様々な観点からことばで人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。学内外で色々な人と会って話すことが好きな人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、事例を読み解くことができること、自分のことばでまとめながら資料セッション運営できること、記事や報告レポートを書き発信することができる日本語力が必要です。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	自己紹介準備
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期に学んだことをふりかえり、担当教員と共に本学期の個人目標をたてる	学期の予習：個人ポートフォリオの作成 復習：個人ポートフォリオの見直し
3	文献、資料調査	目的の確認、インタビューの問いの設定 ブレインストーミング	予習：ハンドアウトを読み問いにこたえる 復習：まとめを書く
4	文献、資料調査	インタビュー手法に関する文献購読	予習：ハンドアウトを読み問いにこたえる 復習：まとめを書く
5	ワークショップ①	外部講師によるインタビューワークショップ	予習：資料精読 復習：省察シート
6	インタビュープロジェクト①	インタビュー　①	予習：タスク 復習：省察シート
7	インタビュープロジェクト②	インタビュー　②	予習：資料精読 復習：省察シート
8	インタビュープロジェクト③	ピア活動	予習：タスク 復習：省察シート
9	インタビュープロジェクト④	インタビュー準備	予習：資料精読 復習：省察シート
10	インタビュープロジェクト⑤	インタビュー準備	予習：タスク 復習：省察シート
11	ワークショップ②	外部講師による編集・発信ワークショップ	予習：ハンドアウト精読 復習：資料を考える
12	発表準備①	セッション運営準備	予習：資料案を書いてくる 復習：資料修正、提出
13	発表準備②	セッション運営準備	予習：セッション準備 復習：省察シート
14	発表①	セッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：セッション準備 復習：省察シート
15	発表②	セッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：資料セッション準備 復習：省察シート
16	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 インタビュー記事作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB(CF202)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ： グループワークを通じて、「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。 1 つの研究テーマをグループで見出し、共同でその研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものかを学び、共同作業による連帯意識を構築することができる。	⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	(1)観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。 (2)研究テーマに関する研究手法や研究の意義を理解できる。	・グループによる課題提出 ・グループによるプレゼンテーション	10% 10%
情報収集、分析力	(1)先行研究がどのように活かせるかを述べることができる。 (2)研究調査の構成を組み立てることができ、調査結果を的確に分析することができる。	グループディスカッション	30%
コミュニケーション力	調査結果を的確に伝えることができる。	グループによるプレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	(1)計画的に準備し実行することができる。 (2)研究調査に積極的に参加し、貢献できる。	・グループによる課題提出 ・グループワークの取り組み	5% 5%
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

グループによる課題提出（15%）はワード文書とし、グループによる発表（50%）は、パワーポイント資料を用いて行う。課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等を評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等を評価する。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。

ディスカッション（30%）においては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価し、グループワークへの参画（5%）を評価する。

授業の概要

グループで研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。

この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。

教科書・参考書

教科書・参考書：特に指定しない。

指定図書：ジェームズ・マック（2005)『観光経済学入門』日本評論社

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	研究テーマを考える。
2	共同研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
3	共同研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
4	共同研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	調査内容について案を作成する。
5	共同研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	共同研究(5)調査	実地調査を実施する。	調査計画を検討する。
7	共同研究(6)調査	実地調査を実施する。	調査計画を定める。
8	共同研究(7)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	共同研究(8) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	共同研究(9)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	共同研究(10)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	共同研究(11)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	共同研究(12)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	共同研究(13)研究発表	一連の研究を発表報告し、討論する。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	共同研究(14)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)			担当教員	竹田　文雄		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA で実践した実務的な観点からの学修を継続します。力点を置きたい課題は以下のとおり。 ①「知り得た知識を自分の意見として言葉や文章で発信する際の表現力の強化」 ②「主体性・ホスピタリティ」 OODA ループにあてはめて演習の進捗を確認する訓練も試みる予定。 具体的な学修プロセスは専門演習ＩＡを踏襲します。	①②⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			%
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等を活用できる。 （新しいことを始める際の情報の収集と、それら情報の取捨選択。）	・プレゼンテーション	10%
コミュニケーション力	自らが率先してインバウンドを語ってみるという確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。	・課題参画 ・プレゼンテーション	30% 30%
協働・課題解決力	グループ内での会話の実践と、その場の取り纏めができる。 （アウトプットの実行。）	・課題参画	30%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

何事にも積極性を求めます。特に「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の３つの要素を主な評価軸とします（評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。

授　業　の　概　要

教科書を使用します。毎回必ず予読をした上で、教科書を授業に持参しなければいけません。授業スキームは、前半は毎回の定められた範囲について、担当教員のリードで内容の確認を行っていきながら解説をしていきます。授業の後半は、学生同士でのディスカッションの時間に当てます。当日の定められた範囲の中で担当教員が検討課題を提示します。その課題についてディスカッションを行ってもらい、最後の 10 分で「今日のまとめ」を学生から提示してもらいます。特に後半は「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」形です。なお学外調査等での授業振り替えの可能性があり、また効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な１コマあたりの授業外学修時間は４５分とします。

教　科　書　・　参　考　書

教科書/参考書：『観光再生　サステナブルな地域をつくる 28 のキーワード』:
村山　慶輔　　プレジデント社：
指定図書：　　『インバウンド再生　コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』:
宗田　好史　　学芸出版社

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席・遅刻の際は、必ず事前に連絡を入れること。　まずは大人の受講態度を求めます。　次に必ず毎回予習（予読）を行うこと。　予読を行うことで授業中の理解度は格段に向上します。　そして学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。　なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もないです」が口癖の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の授業が苦痛をともなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていません。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の導入	演習 ＩＡの結果を踏まえて、ＩＢでの方向性や各自の問題意識の持ち方を確認。 演習全体の方向性の再確認。	予：シラバスの読込み。 ５分自己紹介の準備。 復：何を目指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を５分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	第 15 章	・アフターインスタ映え	予：目指す事を５分間で発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
4	第 16 章	・食の多様化	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
5	第 17 章	・アドベンチャー・ツーリズム	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
6	第 18 章	・ロングステイヤー / ワーケーション	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
7	第 19 章	・レスポンシブル・ツーリズム	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
8	第 20 章	・高付加価値化	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
9	第 21 章	・富裕層（ラグジュアリー）マーケット	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
10	第 22 章	・ニューマーケットの開拓	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
11	第 23 章	・観光 CRM	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
12	第 24 章	・リスク分散 / 事業の多様化	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
13	第 25 章 第 26 章	・人材の確保・育成 ・サバティカル制度	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
14	第 27 章 第 28 章 おわりに	・ダイバーシティ ・関係人口の創出 ・おわりに	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
15	年度総括	・個別総括の発表（@10 分）	予：個別総括の仕上げ。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ　(CF202)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
地域の観光素材に対する認識を深め、持続的な地域観光の実現のための滞在型観光構築に資する企画造成を研究します。地域観光素材の活用事例の学習においては、利益、関係者メリット、継続性についての分析ができることを目標とします。そのうえで既存の地域観光素材の再定義を行い、対象とする具体的な市場ニーズに合わせた新たな価値創造のための商品事業化の手法を学びます。	②⑥ ⑦⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・旅行業および観光業の成り立ちを理解する。 ・現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。	企画書作成	20%
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。	・授業への積極的な姿勢	30%
コミュニケーション力	・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 ・課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。	・プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。	・授業への積極的な姿勢	10%
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

「授業への積極的姿勢」(40%) は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。
「レポート」(20%) は内容の論理性・独自性を重視して判断します。
「プレゼンテーション」(40%) は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価する。
フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。

授業の概要

主にテーマ別観光の種類、地域課題の背景との関連性、具体的なニューツーリズムの事例研究を通じて、着地型商品企画造成のための基礎知識の習得を図り、グループワークによる商品事業案の策定を行います。また事業案の実施を通し、地域の課題解決につなげる視点を身に着けます。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。

教科書・参考書

教科書/参考書：『図解でわかる SDGs』平本督太郎（メイツ出版）
指定図書：『持続可能な地域の作り方』筧　裕介（英治出版）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	（予習）事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談によるＩＡの振り返りおよびＩＢ目標設定	（予習）自身の興味・関心をまとめてくる
3	地域観光課題解決のための取り組み①	演習課題の概要と背景について学ぶ	（予習）観光庁のHPなどを見て事業の実態を確認
4	地域観光課題解決のための取り組み②	課題のテーマの選別と論点整理、クループ編成とテーマ設定（対象地域の絞り込み）	（予習）自分の町の課題についてまとめてくる。
5	地域観光課題解決のための取り組み③	テーマ課題についての具体的な事例研究	（復習）事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
6	地域観光課題解決のための取り組み④	事例研究に従って、情報収集と活動内容の検討	（復習）事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
7	地域観光課題解決のための取り組み⑤	情報収集と活動内容の検討	（復習）事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	地域観光課題解決のための取り組み⑥	これまでの予備学習について各自レポート作成・発表。	（予習）自分の関心テーマを考えてくる。
9	テーマ案発表と 立案企画フレームの精査	各チームのテーマを発表・全員で討議 企画テーマの内容や方向性を確認	（復習）企画イメージをまとめる。
10	グループワーク	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジューリング確認。	（予習）調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	フィールドワーク（事業パートナーとの打ち合わせ、想定利用施設の視察など）	（予習）調査ポイントの詳細な確認
12	グループワーク	グループごとの進捗・経過の発表	（予習）発表内容の論点確認
13	グループワーク	企画案の内容確認・精査	（予習）自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク	プレゼンテーション準備	（予習）発表準備
15	まとめ	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	（予習）グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)	担当教員	山内　美穂

展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次･時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
この演習では、観光のことばや異文化理解について考えます。観光やまちの「ことば」の観察を通して、考える力や発見する力、説明する力を養います。また、演習を通して異文化理解や多文化共生社会におけるコミュニケーションについても考えます。	①④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	自分が担当した「問い」の答えについて分かりやすい資料を作れる。 テーマに沿って調べ、プレゼンテーションできる	発表資料 プレゼンテーション	20% 20%
コミュニケーション力	自分が担当した「問い」の答えについて自分のことばで説明できる。 他人の発表に対して意見を述べられる。 グループメンバーと協力して発表やプレゼンテーションの準備ができる。	発表 議論 発表準備	30% 20% 10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

自分の担当箇所の発表資料の作成で 20%、授業での発表で 30%、プレゼンテーションで 20%、授業の議論への参加で 20%、発表準備の状況で 10%を評価します。発表内容、プレゼンテーションに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。

授　業　の　概　要

履修者は、テーマに沿って教員が投げかけた「問い」について考え、議論しながら、観光のことばや異文化理解について学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で出されたテーマに対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人も、配布した資料の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。いくつかの演習を通して、観光やまちのことばについて、また、さまざまな文化背景を持つ人が暮らす社会や観光の在り方について考えます。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：授業中に指示する

参考書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020

指定図書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、観光のことばに関心がある学生や、異文化理解や多文化共生社会に興味がある学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。

授業外でも目や耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。また、各国各地出身の仲間と協働することを楽しんでほしいです。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習のねらい、進め方、発表などについて説明する。	予習：前期の課題のレジュメ作成
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	多文化共生社会って①	多文化共生社会について考える	予習：配布プリント「多文化共生」を読んでおく 復習：教員の出す「問い」について答えをさがす
4	多文化共生社会って①	グループ発表	予習：教員の出す「問い」について答えをさがす 復習：多文化共生について考え振り返りシートを書く
5	言語景観	「言語景観」について理解する。「言語景観」フィールドワークの計画を立てる	予習：配布プリント「言語景観」を読んでおく 復習：自分が住む場所の「言語景観」を観察・撮影
6	言語景観 フィールドワーク①	「街のことば」フィールドワーク① 教員とともにフィールドワーク実習	予習：「言語景観」の復習 復習：グループごとにフィールドワークの計画確認
7	言語景観 フィールドワーク②	「街のことば」フィールドワーク② グループごとにフィールドワーク	予習：グループごとのフィールドワークの計画確認 復習：発表準備
8	言語景観 調査結果発表	「街のことば」について発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価
9	インタビュー①	インタビューとは	予習：配布プリント「インタビュー」を読んでおく 復習：配布プリントを使って復習
10	インタビュー②	インタビュー調査発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価
11	期末プロジェクトプラン ジョイント授業準備	期末のグループプロジェクトのテーマを決める ジョイント授業準備	予習：ジョイント企業について調べてくる 復習：グループごとに期末プロジェクトプラン確認
12	ジョイント授業	地元企業とジョイント授業	予習：ジョイント企業への質問を準備 復習：感想を書く
13	期末プロジェクト準備	グループごとにこれまで学習した内容をもとにテーマを決め期末研究を行う。この回は調査準備	予習：これまで学習した内容を振り返る 復習：調査準備
14	期末プロジェクト調査	調査またはフィールドワーク	予習：調査計画確認 復習：グループごとに発表への準備
15	期末プロジェクト発表	グループ演習期末発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB (CF202)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
This course builds on the skills gained in the previous semester. In addition to further improving students' ability to discuss and present ideas about current global affairs, this course aims to teach students how to communicate and collaborate with students in other countries using online exchange.	② ④ ⑤

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			%
情報収集、分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs in a group	Assignments Presentation	20% 10%
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs as a group in a way that engages their audience Students can communicate online with students from other countries.	In-class engagement Presentation Report	30% 20% 20%
協働・課題解決力			%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30%
Assignments (weekly assignments, preparation work for projects): 20%
Projects (final presentation, final report): 50%
* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)

授 業 の 概 要

In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion.この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：None
参考書：English newspapers in the library
指定図書：Hot Topics Japan 2

授業外における学修及び学生に期待すること

1. This course is conducted in English.
2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work.
3. Student expectations: Students will attend all lessons (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher before missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	Introduction	• Introduce the course and review the syllabus • Framework for selecting and discussing current events	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	• Conference with seminar teacher to reflect on last semester's goals and set new ones / *Rubric Hyoka*	Prepare goals
3	Online exchange introduction	• Set up online exchange • Online etiquette and best practices	Decide current even topic
4	Online audio and video skills	• Creating and sharing videos for online exchange • Creating and sharing audio for online exchange	Begin online interaction
5	Group 1 presentation	• Group 1 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
6	Online exchange status report	• Report status of online exchange activity • Fixing communication breakdowns	Summarize activity in notebook
7	Group 2 presentation	• Group 2 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
8	Online exchange status report	• Report status of online exchange activity • Begin formulating final project topic	Summarize activity in notebook
9	Group 3 presentation	• Group 3 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
10	Online exchange status report	• Report status of online exchange activity • Finalize final project topic	Summarize activity in notebook
11	Group 4 presentation	• Group 4 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
12	Online exchange status report	• Report status of online exchange activity • Provide outline of final project plan	Summarize activity in notebook
13	Final presentation preparation	• Workshop and status update of final presentation	Bring materials related to final presentation
14	Final Presentations	• Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	• Students present and participate in Q&A • Final class discussion	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB(CF202)			担当教員	浦郷　淳		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習のテーマは「探究の姿」である。「探究」とは様々な場面で使われる用語であるが、ここでは学校教育における「探究」に焦点をあてる。小学校・中学校・高等学校で受講者が学修してきた「探究」を振り返った上で、様々な事例から探究の姿を分析し、その姿とのかかわり方を整理し、自らの学修が「探究」となる術を身に付けられるよう導きたい。本年度の演習では、中学生に対する「租税教室」づくりに取り組む。中学生の問題意識を想定しながら，議論を通してグループ毎に授業を創っていく。その過程で、情報を整理・分析する能力、集めた情報を的確に表現し、論理的に示す能力、ディスカッションを通して受講者相互の相違を理解する多様性の理解力、これら基礎力の養成をはかりたい。学修の成果は、外部への発信へとつなげていきたい。	③⑤⑥⑧

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	データや資料等の文献を的確に分析することができる。 発表を基に、自身が経験した「探究」を整理することができる。	レジュメ レポート等	20% 20%
コミュニケーション力	レジュメを用い、聞き手を意識した表現ができる。 テーマに関して、他の受講者と質疑応答・議論に参加できる。	発表・応答 質疑応答・議論	20% 10%
協働・課題解決力	授業づくりに協働的に取り組み、課題解決を行うことができる。	授業への参画の様子	20%
多様性理解力	自らの経験と他者の経験の違いを理解し、経験の多様性について尊重した上で議論をすることができる。	質疑応答・議論	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

○　評価については、レジュメの様式・内容を 20%、発表と質疑応答・議論を 60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを 20%の比率で評定する。
○　レジュメは、①様式の順守②引用文献のルールの順守③事実と考察、分析の的確さ④自らの学修の履歴の整理等で評定する。レジュメの作成方法については演習中に例示し、随時修正個所の指摘やアドバイスを行う。
○　発表後のレポートは、①議論を受けた加筆修正②自らの学修の履歴の整理等で評定する。
○　発表者は、①聞き手を意識した資料の用意と発表の様子②質問の意図を理解した応答等で評定する。
○　質疑・議論では、①端的な質問②相手を尊重した議論で評定する。

授業の概要

授業については、「租税教室」づくりをテーマに概ね次の手順によって進める。
1. 自身の「探究」学習の経験について表出し、整理し、分析する手段について理解する。
2.「租税教室」づくりについて、分担を決め、グループを分ける。
3.「租税教室」づくりについて、グループ毎に資料を作成して授業化する。発表の様式については授業中に説明する。
4. 専門家の話を聞きながら，授業づくりに必要な知識を得て授業を修正していく。
5. 実際の中学校に出向き,授業を行う。
6.「租税教室」を通して得たことを整理し、レポートを作成する。レポートは発表担当後に提出する。
7. この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）
参考書：藤原さと『「探究」する学びをつくる:社会とつながるプロジェクト型学習』平凡社（2020）
指定図書：田村学『「探究」を探究する―本気で取り組む高校の探究活動』学事出版（2017）
文部科学省「学習指導要領」※授業で説明する。

授業外における学修及び学生に期待すること

1.担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。
2.議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。
3.留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予）シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	租税教室の授業づくりの目的確認とグループ分け	目的を明確にもつ。 租税教室の授業づくりに向けてグループ分けを行う。 これまで経験した「探究」の学修について情報を共有する。	予）自身の「租税教室」の経験の整理 復）学修の具体をまとめる
4	中学生の税金に対する問題意識を考える	思考ツールを用いて中学生の税金に対する知識を整理する。	予）中学生の「税金」の知識について予想する 復）中学生の「税金」の知識について整理する
5	租税教室の授業づくり①	グループ毎に授業する内容、指導する方法を考える。	予）授業のアイディアを練っておく 復）授業方法を考える
6	租税教室の授業づくり②	グループ毎に授業する内容、指導する方法を考える。	予）授業のアイディアを練っておく。 復）必要な道具の用意。
7	専門家による講話	税金についての詳しい内容の講話を聴き、授業に活かせる点を考える。	予）必要な道具の用意。 復）税金に関する知識の整理。
8	租税教室の授業づくり③	講話の内容をもとに、グループ毎に授業する内容を整理する。 必要な道具を準備する。	予）授業に取り入れる知識とアイディアの整理 復）必要な道具の用意。
9	租税教室の準備 模擬授業と修正	模擬授業を実施する。 改善点を明らかにし，改善を行う。	予）模擬授業の準備 復）授業内容の修正
10	租税教室の準備 専門家による講話 模擬授業と修正	専門家の前で模擬授業を実施し，アドバイスをもらう。 アドバイスをもとに修正を行う。	予）模擬授業の準備 復）得られたアイディアの整理
11	中学校での租税教室の実施	中学校に出向き，租税教室を実施する。	予）必要な用具の準備 復）振り返りの記入
12	租税教室の振り返り	租税教室の振り返りを行う。	予）租税教室の振り返りの整理 復）授業に必要な道具の準備
13	租税教室の準備 模擬授業と修正	修正点を踏まえて模擬授業を行う。 必要な道具を用意する。	予）模擬授業の準備 復）授業の準備
14	中学校での租税教室の実施	中学校に出向き，租税教室を実施する。	予）必要な用具の準備 復）振り返りの記入
15	租税教室の振り返り	租税教室の振り返りを行う。 身についた資質・能力を確認する。	予）租税教室で自分に身についたことについて振り返りを行う。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB(CF202)			担当教員	江島　弘晃		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
専門演習 IA および IB ではスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析する能力を習得することを目的とする。とくに、健康をキーワードにスポーツとの関連性や心身統合の調和における運動の意義等を資料による解説、発表、討論を通して理解を深める。その際、学生が PC などを用いた文書・表図からスライドを作成することで、プレゼンテーション能力を習得する。IB では関連分野に関するテキスト、原著論文の輪読に取り組み、運動処方における正確な知識と理解の習得に重視する。	②⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	・ スポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析することで自身の競技種目又は健康管理に関する問題点を抽出することができる。	・ 情報収集	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べることが出来る。 ・ 自分自身が調査した内容を簡潔に発表することが出来る。	・ 発表内容 ・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	70%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自が設定した課題・テーマに関する先行研究や資料を選択することでスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、それらを基にした適切な要約を作成しているか否かを評価する（評価比率:30%）。また、作成した要約を自身の考察をプレゼンテーションで適切に表現し、他者の意見を踏まえた議論が展開出来ているか否かを評価する（評価比率:70%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。

授　業　の　概　要

スポーツ・健康科学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いて文書・表図作成またはスライド作成の技法を習得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッション（議論・討論）は参加者全員で行う。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない
参考書：日本体力医学会体力医学編集委員会著「運動処方の指針原書第８版」(南江堂) ISBN: 978-4-524-26216-8
指定図書:日本体力医学会体力医学編集委員会著「運動処方の指針原書第８版」(南江堂) ISBN: 978-4-524-26216-8

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できる基本的な知識を獲得することを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することも目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 個別に学業などに関する面談を実施	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備（1）	・ 教員による参考書・テキストなどの紹介	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
4	輪読の準備（2）	・ 教員による輪読・発表（当該研究分野における起源又は最新の研究内容などの発表）	予習：運動処方に関しての調査 復習：健康の評価について復習
5	輪読（1）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験①）	予習：参考書などの通読 Section II 3のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の禁忌について復習
6	輪読（2）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験②）	予習：論文・テキストの精読 Section II 4のレジュメ作成 復習：体力テストの内容について復習
7	輪読（3）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験③）	予習：論文・テキストの精読 Section II 5のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の様式について復習
8	輪読（4）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験④）	予習：論文・テキストの精読 Section II 6のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の診断能について復習
9	輪読（5）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方①）	予習：論文・テキストの精読 Section III 7のレジュメ作成 復習： 運動処方の概念について復習
10	輪読（6）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方②）	予習：論文・テキストの精読 Section III 8のレジュメ作成 復習：非健常者の運動処方について復習
11	輪読（7）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方③）	予習：論文・テキストの精読 Section III 9のレジュメ作成 復習：心疾患患者の運動処方について復習
12	輪読（8）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方④）	予習：論文・テキストの精読 Section III 10のレジュメ作成 復習：他の臨床疾患患者の運動処方について復習
13	調査計画	・ 関心のある研究内容を選択し、関連研究の調査	予習：関心のある研究内容を自身でまとめる 復習：各自の発表内容をまとめる
14	調査計画の報告	・ 担当者による関連研究の報告および考察 （資料・プレゼンテーションによる報告）	予習：まとめた研究内容を発表するための資料作成 復習：各議論した内容をまとめる
15	総括	・ 後期授業のまとめと休暇中の課題	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB　(CF 202)			担当教員	川上　直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。	①⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。	レポート・発表	15%
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。	レポート・発表	30%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニュケーション能力を上達させることができる。	発表	35%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。	授業参加度	20%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自、3 本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の 80%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。

授業の概要

本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜プリントを配布する。
参考書：適宜プリントを配布する。
指定図書：世界の歴史１：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）

授業外における学修及び学生に期待すること

古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明１	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国、カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス２世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル３世、サルゴン２世、エサルハドン、アシュールバニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF202)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA に引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通了解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。	⑤ ⑥ ⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。	・資料収集 ・問いの設定内容	３０％ １０％
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通了解となる答えをみつけるための議論ができる。	・他者の主張を踏まえた議論の展開	６０％
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。
・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。
・個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。
・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

授　業　の　概　要

・体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメ（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。
・この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない
教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない
教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版　＊該当年度の問題集
指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、 雑誌『現代スポーツ評論』創文企画
『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房

授業外における学修及び学生に期待すること

「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
2	哲学的対話という方法ＩB	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践ＩB （テーマ：体育やスポーツに関する事柄）	予習：『はじめての哲学的思考』を通読 復習：図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
3	レジュメの作成ＩB	主張の抽出と思考の言語化ＩB （レジュメの作成方法の見直し）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
4	指導案の作成ＩB	授業/指導計画と種目の教材化ＩB （実技指導の対象を選定）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ:スポーツを漫画、アニメ、映画から考える）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツ指導に関する問題）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：体育の授業の実状）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ･運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：オリンピック・パラリンピックの功罪）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：都市型スポーツの教材化）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB(CF202)			担当教員	東出　朋		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では日本語の「敬語コミュニケーション」に関する基本的な知識を学ぶ。日本人学生も留学生も受講可能である。敬語の運用について学習者はもちろん母語話者も難しさを覚える。敬語コミュニケーションにおいては、語彙・文法的な正確性以上に運用上の適切性が重要である。本演習では、敬語コミュニケーションについての原則を理解し、実例を観察し、運用力を高めることを目指す。	①②③⑥⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	敬語コミュニケーションについての基本的な知識を知る。	発表 レポート	10% 15%
情報収集、分析力	コーパスや実際の談話から敬語コミュニケーションの実例を収集し、分析することができる。	発表	35%
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。 ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べることができる。	発表 ディスカッション	20% 20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

敬語コミュニケーションに関する専門知識について、普段の発表やレポートを 30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて 30%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて 40%で評価する。練習問題や発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。

授業の概要

授業内では、輪読し練習問題を解き、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、問題を解き、自分で表現を集めたり調べたりする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学習時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：蒲谷宏（2014)『敬語マスター―まずはこれだけ　三つの基本』大修館書店

参考書：特になし

指定図書：蒲谷宏編著／金東奎・吉川香緒・高木美嘉・宇都宮陽子著（2010)『敬語コミュニケーション』朝倉書店

授業外における学修及び学生に期待すること

普段から敬語コミュニケーションに関して注意を払い、他者の使用を観察すること。
日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT)」を各自受験すること。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方，評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習）ルーブリック評価と読書記録の入力 復習）ルーブリック評価
3	第Ⅰ部基礎編 第3章　恩恵を表す敬語 3-1 恩恵を表す敬語(1)	恩恵を表す敬語(1)サシアゲル系	予習）3-1 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
4	第Ⅰ部基礎編 第3章　恩恵を表す敬語 3-2 恩恵を表す敬語(2)	恩恵を表す敬語(2)クダサル系	予習）3-2 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
5	第Ⅰ部基礎編 第3章　恩恵を表す敬語 3-3 恩恵を表す敬語(3)	恩恵を表す敬語(3)イタダク系	予習）3-3 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
6	復習	恩恵を表す敬語に関する実践練習	予習）実例検索 復習）練習問題
7	第3章 敬語化から敬語コミュニケーション化へ	適切な敬語コミュニケーションをするために	予習）3章語彙・漢字チェック 復習）練習問題
8	第3章 敬語化から敬語コミュニケーション化へ	適切な敬語コミュニケーションをするために	予習）3章語彙・漢字チェック 復習）練習問題
9	第3章 敬語化から敬語コミュニケーション化へ	適切な敬語コミュニケーションをするために	予習）3章語彙・漢字チェック練習 復習）練習問題
10	第4章 敬語コミュニケーションの実践	4.1「面接」の敬語コミュニケーション	予習）4.1 語彙・漢字チェック練習 復習）練習問題
11	第4章 敬語コミュニケーションの実践	4.1「面接」の敬語コミュニケーション	予習）4.1 語彙・漢字チェック練習 復習）練習問題
12	第4章 敬語コミュニケーションの実践	4.2「発表」の敬語コミュニケーション	予習）4.2 語彙・漢字チェック練習 復習）練習問題
13	第4章 敬語コミュニケーションの実践	4.2「発表」の敬語コミュニケーション	予習）4.2 語彙・漢字チェック練習 復習）練習問題
14	復習①	敬語コミュニケーションの総合的な復習①	予習）実例検索 復習）練習問題
15	復習②	敬語コミュニケーションの総合的な復習②	予習）実例検索

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB(CF202)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習ＩAに続き、スポーツトレーニングに関するテキストの輪読を通して、トレーニング、体しくみ、さらにスポーツ科学全般に関する基礎的な知識を理解すると共に、実技により実践の基礎を経験し、習得することを目的とする。また、これらの基礎的知識や実践を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。	①　⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 体のしくみを理解し、トレーニングに関する基礎的知識を理解することができる。 ・ 各種トレーニングの実践方法を修得する。	・ プレゼン用レジュメ ・ 実技試験	10% 10 %
情報収集、分析力	・ 自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニングやスポーツ科学理論の観点から考えることができる。	・ プレゼン後のディスカッション	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。	・ プレゼンテーション ・ プレゼン後のディスカッション	50%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション（80%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（10%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする（授業内でフィードバック）。実技試験（10%）については、正しい方法を理論的に理解した上で実践できているかを評価基準とする。

授業の概要

スポーツトレーニングに関するテキストを輪読していく（①担当箇所・担当者の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、実技は本学にて実習形式で行っていく。
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版
指定図書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版

授業外における学修及び学生に期待すること

体のしくみやトレーニングに興味を持ち積極的に参加してほしい。また、自身のスポーツ時や日常においても、ゼミで習得した基礎知識をリンクさせ、疑問をもって自身で調べ、理解する等の取り組みを行ってほしい。
実技については、実践・体験することにより習得できるものであるから、スポーツに関わる人間として積極的な態度を期待する。
さらに、大学生としての受講態度やマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション、前学期の省察と本学期の目標設定	自己紹介、前学期の省察と本学期の目標設定、後期のゼミの進め方についての説明、輪読①担当決定	予習：前学期の省察と本学期の目標を考えておく。前期の内容を見直しておく。 復習：省察と目標の確認。ゼミ内容の全般的な確認。
2	輪読①	栄養素、基礎代謝、BMI について、 輪読②担当決定	予習：自身の身長体重を調べておく。 復習：標準体重の計算が即座にできるよう確認しておく。
3	実技①	SAQ トレーニングの実践	予習：敏捷性のトレーニング方法を調べておく。 復習：自分の種目に合わせた SAQ トレーニングを考え、実践する。
4	輪読②	体力測定、トレーニングの原理原則について、輪読③担当決定	予習：体力測定の項目を確認しておく。 復習：トレーニングの原理原則を覚える。
5	実技②	ペアストレッチの実践	予習：動画でペアストレッチを把握しておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
6	輪読③	目的に応じた筋トレ方法、超回復について、輪読④担当決定	予習：様々な筋力トレーニングの方法を調べておく。 復習：筋肥大したいのか、筋力をつけたいのか、など具体的に考えた上でトレーニングをして覚える。
7	実技③	PNF ストレッチの実践	予習：PNF という言葉について調べておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
8	輪読④	メッツ、カルボーネンの目標心拍数について、輪読⑤担当決定	予習：消費カロリーについて調べておく。自分の安静時心拍数を確認しておく。 復習：カロリーや目標心拍数の計算がスムーズにできるよう式を覚える。
9	実技④	コンディショニング整体の実践	予習：コンディショニングについて調べておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
10	輪読⑤	最大酸素摂取量、AT について、輪読⑥担当決定	予習：有酸素能力の指標について調べておく。 復習：自分の最大酸素摂取量を計測する機会を持ち、AT も知っておく。
11	実技⑤	認知機能低下予防運動の実践	予習：「脳トレ」について調べておく。 復習：日常生活の中で実施し、脳を活性化させ方法を覚える。
12	輪読⑥	子どもの発達･スキャモンの発育曲線について、輪読⑦担当決定	予習：子どもの発達について調べておく。 復習：子どもにどのようなスポーツを提供していくべきか確認し、メカニズムを覚える。
13	実技⑥	介護予防運動の実践	予習：いきいき百歳体操の動画を見ておく。 復習：指導の流れや動作のポイントを確認する。
14	輪読⑦	トレーニングとメンテナンスについて	予習：様々なボディメンテナンスについて調べておく。 復習：栄養補給や体のケアなど、日頃から意識してスポーツに取り組むべきことを確認。
15	実技⑦	総括	予習：これまでの全体を見直しておく。 復習：自分の習得度を確認し、不十分なところを繰り返し学修する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ（CF202）			担当教員	川上　知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの 類 型
本演習では，青年心理学（青年期：国や論者によって諸説あるが，一般的に中・高・大の年齢層）を大きな柱とし授業を展開する。学生の皆さん自身が位置づく青年期の心理学的側面について理解を深めることで，自己理解・他者理解を促していくことを目的としている。具体的には，青年期前期（中学生段階），青年期中期（高校生段階），青年期後期（大学生段階）で起こるまたは起こり得る現象を心理学的視点に基づく根拠を踏まえて分析・考察することを通して，現象を多面的に捉える力を養う。	①④⑤ ⑥⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・青年期前期，中期，後期の各段階の発達的特徴について理解し，自分の経験や現在に置き換えるなどして説明することができる。	発表・議論 授業の振り返り	10%
情報収集，分析力	・自分のもつ問題意識の根拠となる，新聞やニュース，文献，書籍などから事例や情報，理論を収集することができる。 ・多面的に物事を整理し，自分自身がどう考え捉えているのかを意識して，プレゼン資料やレポートを作成することができる。	レポート・プレゼン資料	35%
コミュニケーション力	・他者の意見（ものの見方）に関心・理解を示しつつ，自分自身がどう考え捉えているのかを伝えることができる。	発表・議論 授業の振り返り	40% 5%
協働・課題解決力			
多様性理解力	・自身の課題への取組と他者の意見を通して，色々なものの見方，感じ方があることを理解することができる。	発表・議論 授業の振り返り	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については，レポート・プレゼン資料の様式や内容を 35%，発表・議論，授業の振り返り（授業後記述）を 65%の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は，文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては，演習の初回で説明し，作成に関する修正点や質問等は随時対応する。発表・議論，授業の振り返りについては，専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて，発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。
なお，前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

授　業　の　概　要

この演習では，青年心理学を大きな柱とし授業を展開する。自身の問題意識をもとにプレゼン資料を作成し，互いの議論で現象理解の深化，自他への理解を促していく。具体的な授業の流れとしては，各自，青年期（中学，高校，大学）におけるアイデンティティの発達や人間関係，将来の進路などに関する課題についての事例を提示し，その背景や対処法などについて客観的根拠に基づく自身の見解を発表する。IA で学んだ基礎的な視点を踏まえつつ，IB では，自分の意見を支える客観的根拠の情報収集により力点を置く。この演習の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は，
45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。
参考書：授業時に紹介するので，詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。
指定図書：エピソードでつかむ青年心理学（大野久編著，ミネルヴァ書房），
思春期・青年期のこころ―かかわりの中での発達（平石賢二編著，北樹出版）
※留学生には別途，授業中に指示する

授業外における学修及び学生に期待すること			
１．自分の考えの根拠となる客観的資料（論文，著書など）の収集を普段から意識すること ２．自分にとっての切実な心理的，教育的課題についての問題意識を整理すること ３．他者のテーマについても，理解を深めるよう情報を集めるなどして努めること。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習：事前にシラバス及び演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期の目標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習：自身のこれまでの取組や興味・関心について整理してくる。
3	青年期に関する基本的知識の確認	既習事項の確認 ※後半は教員が提示するテーマについての議論	予習：既習事項の基礎的知識
4	青年期の各段階に関する発達的傾向についての知識習得	一般的に，青年期はさらに前期（中学生），中期（高校生），後期（18 歳～22 歳頃）と分けて論じられることがある。各段階における発達的傾向について学ぶ	復習：エリクソンの漸成発達理論について復習
5	レポート・発表資料の作成方法について	レポート・発表資料の作成について （根拠となる客観的資料の収集について）	復習：資料収集，発表準備
6	事例に学ぶ①	青年期（中・高・大）における不登校について，教員が論文を提示。教員が提示する視点についての議論	予習：事前に論文に目を通し，質問事項について整理
7	事例に学ぶ②	青年期（中・高・大）における進路選択について，教員が論文を提示。教員が提示する視点についての議論	予習：事前に論文に目を通し，質問事項について整理
8	テーマ研究①	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
9	テーマ研究②	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
10	テーマ研究③	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
11	テーマ研究④	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
12	テーマ研究⑤	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
13	レポートの構想	自分のテーマについての振り返り，必要に応じて個別対応	予習：自身のテーマについての整理
14	レポートの作成	テーマに関するレポート作成	予習：学びの想起 復習：レポートの仕上げ
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習：発表練習 復習：レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1　単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
本演習は観光人類学の基礎について学びます。文化人類学から発展したクリティカルシンキングで観光を捉え直し、次世代の新しい観光像を打ち立てます。自文化から空間的に脱することで物理的に異文化に触れ、その理解に近づくことが可能となりますが、「観光」はその契機となり、第一の手段として旅があります。それまで知らなかった世界を経験し理解するには、まず冒険することが必要です。オープンに開かれた異文化体験の過程で光が当てられる非日常は、される側にとっては当たり前の日常で、観光による「発見」は、見過ごしていたことを気づかせる契機にもなります。	②④⑥⑦⑧⑩⑪

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	他者理解・異文化コミュニケーション・多文化共生など文化人類学がもととなる観光関係の基本概念を本質的な理解をもって説明できる	・レポート ・討議参画	10%
情報収集、分析力	参与観察や非構造的インタビューな度、フィールドワークの基本を理解し実践できる。	・文献収集 ・現地調査	30%
コミュニケーション力	多様な存在様式、捉え方を踏まえ、全体的な視座からメタ認知し、最善のファシリテーションと場の力を引き出すことができる。	・討論参画 ・意見の陳述 ・グループワーク	40%
協働・課題解決力	プレゼン発表に向けて、課題を的確に把握し、仲間と協力して解決に向けた方策を立案し、調べ、着実に実行できる。グループワークを通して自己表現能力を高め、異なる意見を尊重し、化学反応をもって新しい知を生み出すことができる。	・グループワーク ・討議参画 ・課題発表	10%
多様性理解力	異文化における観光のあり方を理解し、その背景とデモグラフィックな違いを把握し適応できる。異なる意見や見方を尊重し学ぶ姿勢を持つことができる。	・グループワーク ・討議参画 ・課題発表	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

グーグルクラスを基盤として授業を進行します。初めての人には初日に分かりやすく説明します。すべての提出物や、授業で使用するマテリアルはこの ICT をプラットフォームとし、添削などのフィードバックを機能的にします。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におきますので、筆記試験は行いません。プレゼンテーションも評価対象になりますが、本番の発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通した学びをより重視します。故に、目に見える授業姿勢だけではなく、オフクラスの取り組みがレポートとして反映される提出物を重視します。中でも、リアクションペーパーによって授業を作っていくので特に重きを置きます。基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点からも、提出物を評価します。参加型の演習なので無断欠席は仲間の学習に支障となり、減点対象にします。

授　業　の　概　要

この授業は PBL であり、卒論に向けて取り組もうとする課題をプロジェクトとして、文化人類学的理解と手法でアプローチします。構成としては反転授業となります。つまり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは授業全体で得たインプットを、次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにする予習にも活用します。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行います。個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れていれながら、楽しく共に学んでいきたいと思います。また、ＥＳＰでもあるので観光を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とします。アクティブに参加できるようにフレーズや単語など表現を前もって予習して臨んでください。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とします。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：　『基本概念から学ぶ観光人類学』　市野澤潤平　編　ナカニシヤ出版　2022 年

参考書：　『メイキング文化人類学』　浜本満　編　世界思想社　2019 年

指定図書：『これからの時代を生き抜くための文化人類学』奥野克己　辰巳出版　2022

授業外における学修及び学生に期待すること
文化人類学は、観光の基盤となる異文化コミュニケーションや多文化共生など、観光の基盤となる領域を専門的に蓄積してきた学問です。その知見とアプローチを将来国際観光で活躍するための素養として身につけ、自己認識や他者理解を実践的に深めることで、多様な文化や存在様式を尊重できる国際人としての素地を作る場として活用してください。アクティブラーニング科目であるので、自律的主体的に参加し、向上心と好奇心をもって自ら問いを投げかけ、新しい知を構築していってほしい。能動的で積極的な取り組みであるほど、吸収できるものも豊かで深いものになります。学ぶということの本来の楽しさを分かち合いましょう。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の導入	ＩＡの結果を踏まえ、ＩＢでの方向性や各自の問題意識の持ち方等を確認する	シラバス及び演習概略に目を通し、前期での目標達成度を自己評価しておく
2	個人面談・省察	専門演習ＩＡでの成果を振り返り、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認し、新たな目標設定を行う	本学期に向け新たな目標案を検討しておく
3	文化人類学とは	ＩＡで学んだことの振り返り	「人類学とは何か」を復習する
4	観光人類学とは（１）	「観光」「旅」について再考する	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
5	観光人類学とは（２）	「ランドスケープ」「場」について空間認識から考える	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
6	観光人類学とは（３）	「環境」「エコロジー」について生命活動から考える	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
7	フィールドワークとは（１）	観光人類学の概念で身近な現象を捉え直す	参与型観察して思考する
8	フィールドワークとは（２）	観光人類学の概念で身近な現象を捉え直す	非構造インタビューして思考する
9	中間発表	授業でのインプットによって変化した観光概念を具体例とともに共有する	観光人類学の定義とケーススタディの発表
10	方法論について	観光人類学のコンテキストから、フィールドワークの意義と技法について学ぶ	観察と質問について調べておく
11	観光人類学の諸問題	「真正性」と観光文化について再考する	これまでの概念を整理し、再確認しておく
12	課題設定（１）	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、観光人類学的課題を探す
13	課題設定（２）	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、観光人類学的課題を探す
14	専門演習 1B 全体の振り返り	次の学年での学びや自分の将来にどの様につなげるのかを考える	学んだことを再確認する
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う	半期のまとめ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩB　(CF202)			担当教員	余　乾生		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
前期専門演習ＩA を踏まえて、後期では、まず、国立社会保障・人口問題研究所の『社会保障研究』という雑誌を範囲とし、その中からグループワークで感心課題を補強する論文を選択する。そして、前期と同様のプロセス（予習・グループワーク・ディベート）を経て、選択した論文をまとめる。そのうえで、さらに感心課題について、自分の知りたい点を整理する。最後に、その点について、簡単な研究計画の作成に挑戦する（課題解決)。	①④⑤⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	社会保障をめぐる基礎知識を理解することができる。	演習への参加度	10%
情報収集、分析力	論文まとめや研究計画作成のときに、補足の情報（他の論文や資料）を収集し、論理的に分析することができる。	最終レポートとプレゼンテーション	30%
コミュニケーション力	プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。そして、他の方の意見を正確に把握し、論理的に回答やディベートができる。	プレゼンテーションとディベート	40%
協働・課題解決力	グループで事前の打ち合わせやディスカッションにより、課題解決に繋ぐことができる。	演習への参加度	10%
多様性理解力	授業中のディベートを通じて、同じものに対して、異なる意見や理解が可能ということを認識できる。	演習への参加度	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・最終レポート、プレゼンテーションとディベート：補足資料の適切さ、論文まとめの正確さ、プレゼンテーションやディベートのわかりやすさと論理性について評価する。
・演習への参加度：グループワークやディベートへの参加度合を評価する。
　論文まとめの選択からレポートやプレゼンテーションの執筆の各段階において、適宜個人指導を通じて行う。
・フィードバックは授業中に適宜行う。

授業の概要

本演習では、前期には、社会保障についての感心課題を探ることから始め、グループワークを通じて、その課題対応の論文を自分で選択する。そして、正確なまとめ方をプレゼンテーションやディベートを通じて学び、論理的な思考を身に着ける。後期には、前期の論文まとめの知識や経験をベースに、感心課題について、さらに自分の知りたい点を整理する。そして、その点について、簡単な研究計画の作成に挑戦する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。
参考書：適宜紹介する。
指定図書：国立社会保障・人口問題研究所『社会保障研究』
https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/sakuin1.htm

授業外における学修及び学生に期待すること

一つの論文を正確に読むことは、決して簡単ではない。授業外で勉強するときに、わからない記述があれば、地道に調べる習慣を身に着けることが大事。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習ＩＡの結果を踏まえ、各自の感心課題と進め方を確認し、グループ分けを決定する。	予習：シラバスを読む 復習：感心課題の再確認
2	論文の選択(1)	グループディスカッションを通じて、感心課題を補強できる論文を整理し、まとめたい論文を選択する。そして、報告グループの順番を決定する。	予習：読む論文の範囲 復習：まとめたい論文
3	論文の選択(2)	グループごとに、読みたい論文のタイトルを発表し、その理由を説明する。グループ内の役割分担を決める。第４回報告のグループは作戦会議。	予習：まとめたい論文の理由作成 復習：　まとめたい論文
4	プレゼンテーション・ディベート（1-1）	最初のグループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
5	プレゼンテーション・ディベート（1-2）	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
6	プレゼンテーション・ディベート（2-1）	第２グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
7	プレゼンテーション・ディベート（2-2）	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
8	プレゼンテーション・ディベート（3-1）	第３グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
9	プレゼンテーション・ディベート（3-2）	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
10	プレゼンテーション・ディベート（4-1）	第４グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
11	プレゼンテーション・ディベート（4-2）	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
12	知りたい点の整理と研究計画の書き方	グループワークで、自分のさらに知りたい点を整理する。教員は研究計画の書き方を説明する。研究計画の報告順番を決定する。	簡単な研究計画の執筆
13	研究計画の報告（1）	最初の２グループが研究計画を報告する。他のグループとディベートし、教員からフィードバックする。	簡単な研究計画の執筆と改善
14	研究計画の報告（2）	次の２グループが研究計画を報告する。他のグループとディベートし、教員からフィードバックする。	簡単な研究計画の執筆と改善
15	まとめと展望	まとめと最終レポートの説明。	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ (CF202)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年･後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
専門演習ＩＡおよびＩＢでは、スポーツ健康科学および体育分野のトピックを検索および情報共有を行い、ディスカッションを通して基礎的な知識を身に付けることをねらいとする。ディベートによるプレゼンテーション能力およびディスカッション能力の習得を図る。ＩＢでは、中期的な検証の計画性や質疑に対して適切に回答する能力の獲得を目標とする。	①②③④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・運動時の生理応答を理解し、基礎的な知識を身付けることができる。 ・自身の身体を用いて検証することができる。	・発表スライド	30%
情報収集、分析力	・指定されたテーマの範囲内で興味がある内容について著書をはじめとしたその他関連記事を検索することができる。 ・調査した内容を分析することができる。	・情報収集	20%
コミュニケーション力	・調査した内容について、自身が伝えたいことをプレゼン資料を用いながらわかりやすく発表することができる。 ・他者の質疑に対し、適切に回答することができる。	・発表内容 ・質疑内容	30%
協働･課題解決力	・各取り組みや活動において自己理解および他者理解を深め、組織の中の一員として課題を解決することができる。	・受講態度	10%
多様性理解力	・インクルーシブスポーツに関する学びを通して、すべての人がスポーツに参画できる方法を理解できる。	・課題レポート	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

担当回の調査は該当箇所をまとめるだけでなく関連研究の内容まで情報を収集できているかを評価する（20%）。また、図表を用いわかりやすいスライド（資料）を作成しているか（30%）および質疑に適切に回答できているか（30%）を評価する。さらに、受講態度および課題レポートにより主体性（10%）および多様性に対する理解力（10%）を評価する。課題の提出やフィードバックはポートフォリオを用いて行う。

授　業　の　概　要

本演習は自身を対象とした中期的な運動/食事処方を実施し、運動パフォーマンスや健康に関する指標が改善するかどうかを検証する。またＩＡに引き続き、スポーツ健康科学分野に関する著書（記事）を輪読し、基礎的な知識を得た上で、実際に自身の身体で検証する。なお、ディベートでは、事前調査により仕入れた情報をまとめ、この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特になし

参考書：監訳：内藤久士 他,「パワーズ運動生理学　体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)

指定図書：内藤久士 他,「パワーズ運動生理学　体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ健康分野における自身を対象とした中期的な検証に取組むことで身体の変化を捉えるとともに、なぜ改善できたのか/改善できなかったのかを科学的に考える力を身に付けることを望む。予習が必要な回では、指定された内容について事前調査を行う。さらに、ゼミメンバーとの共同での活動やディスカッションを通して、自己理解および他者理解を深め、社会性を育むことを期待する。その１つとして忘れ物、遅刻、欠席等は担当教員に必ず連絡する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・夏季休暇中の活動報告 ・本演習の進め方についての説明 ・前学期の省察と本学期の目標設定	予習：夏季休暇中の活動について プレゼン資料を作成 復習：ゼミ内容の全般的な確認
2	組織（ゼミ）作り	・プロセスエデュケーション	予習：自身の持ち味を考える 復習：ゼミ活動での役割を考える
3	運動、食事処方①	・運動や食事などのスポーツ健康科学分野における半期を通して取組む内容を決める	予習：取組みたい内容を思索する 復習：取組みの方法をブラッシュアップする
4	運動、食事処方②	・現状の把握と計画の共有 ・数値的な目標の発表	予習：取組みを評価する指標を測定する 復習：取組みを開始する
5	輪読会⑤	・担当者による発表と議論 テーマ：インクルーシブスポーツ ・次回実践（体験）する内容の思索	予習：指定された記事に目を通す 復習：インクルーシブスポーツの種類や今後について考える
6	輪読内容の実践⑤	・前回の発表内容について実践（体験）する	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
7	輪読会⑥	・担当者による発表と議論 テーマ：サプリメントと運動パフォーマンス ・次回実践（体験）する内容の思索	予習：指定された記事を読み込む 復習:サプリメントの効果および功罪について理解する
8	輪読内容の実践⑥	・前回の発表内容について実践（体験）する	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
9	運動、食事処方③	・中間報告およびディスカッション	予習：発表スライドの準備 復習:ディスカッションを基に必要があれば修正を加える
10	ディベート①	・スポーツ健康分野をテーマとした討論 テーマ：長生きすることは幸せか	予習：事前調査を行い、まとめる 復習:討論内容について自身の答えを見つける
11	ディベート②	・スポーツ健康分野をテーマとした討論 テーマ：ドーピングは悪か	予習：事前調査を行い、まとめる 復習:討論内容について自身の答えを見つける
12	ディベート③	・スポーツ健康分野をテーマとした討論 テーマ：学校の授業に体育は必要か	予習：事前調査を行い、まとめる 復習:討論内容について自身の答えを見つける
13	ディベート④	・スポーツ健康分野をテーマとした討論 テーマ:ジュニア期のスポーツに勝利主義は必要か	予習：事前調査を行い、まとめる 復習:討論内容について自身の答えを見つける
14	運動、食事処方④	・プロセスの発表 ・結果の共有および反省	予習：発表スライドを準備する 復習：改善点を挙げ、再度取組む場合を想定した計画を立てる
15	総括	・本演習の振り返り ・春季休暇に向けて	予習：振り返りを事前に個人で行い、発表できるようにする 復習：課題に取組む

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ(CF202)			担当教員	小泉　優莉菜		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：博物館・地域文化資源の巡検 博物館などの見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。	⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。	授業・調査への参加度	10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。	事前・事後学習	20%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。	調査における態度	20%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。	プレゼンテーション 勉強会での発表	50%
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

合同調査などにおけるコミュニケーション力が 20%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 50%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。

授業の概要

この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

・書籍・文献調査の課題提示を授業時に行う。

・研究発表会を行う。

・研究成果レポートの作成と提出。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。

参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）

指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※見学・調査費用は実費とする。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の制作	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の制作	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の制作の修正	添削された卒業研究を修正する。	予習：卒業研究の修正 復習：卒業研究の修正
15	後期課題の提出	後期のまとめとして、修正した卒業研究を提出する。	予習：卒業研究提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＢ（CF202）			担当教員	張　美慶		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの類型
SIT 慣行であるダークツーリズムを３つの観点（教育的、倫理的、地域経済的）と意義について整理でき、国際観光力学習に取り組む姿勢を身につける。	⑤⑥⑩

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	SIT(Special interest tourism)ついて説明できる。	テスト	15　%
情報収集、分析力	PC を活用することで、多様な情報を収集することができる。	資料調査	35　%
コミュニケーション力	プレゼンテーションの能力を高めることができる。	発表力	40　%
協働・課題解決力			
多様性理解力	幅広い分野に触れることによって観光の多様性をより理解できる。	ディスカッション	10　%

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

SIT 観光の専門力を確認するためにテストを行う。(評価比率 15%)
情報収集、分析力を身につけるため明確な資料調査で評価する。(評価比率 35%)
コミュニケーション力を高めるため、プレゼンテーションの発表能力、態度などを評価する。(評価比率 40%)
多様性理解力を確認するためにディスカッションを活用して評価する。(評価比率 10%)
チーム発表のフィードバックは授業中に適宜行う。

授　業　の　概　要

本授業は戦争、災難など悲劇的な歴史の現場を訪問して教訓を得るダークツーリズムについて学ぶことである。
国内外の事例を通じてダークツーリズムの概念、特殊目的観光 SIT(Special interest tourism)の知識を習得し、課題について議論し、発表する。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。
参考書：大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』(ナカニシヤ出版)
指定図書：参考書と同じ

授業外における学修及び学生に期待すること

観光は単一現象ではなく複雑な構造で形成されているためグローバルな視点を持つこと、視野を広げてほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	ガイダンス	ダークツーリズムの概念、類型ついて学ぶ。	予: シラバスをよく読んで準備しておくこと
2	省察、個人目標の設定	前学期の省察を行う。なお、個人目標設定のため個別の面談を実施する。	面談の準備
3	SIT 観光	SIT 観光の概念と観光客に関する特性について学ぶ。	予:SIT 観光の概念についてインターネット、記事などで事前に調べておくこと
4	SIT 観光の国内、国外事例	SIT 観光の国内、国外事例について学ぶ。	予:SIT 観光国内、国外事例についてインターネット、記事などで事前に調べておくこと
5	テスト	今まで学んだ SIT 観光についてテストを行う。	復習した内容についてテストを行う。
6	日本ダークツーリズム事例	日本におけるダークツーリズムの事例について学ぶ。(長崎平和公園)	復：長崎事例を通じてダークツーリズムの教育的観点について復習する。
7	日本ダークツーリズム事例	日本におけるダークツーリズムの事例について学ぶ。(阪神・淡路大震災)	復：阪神・淡路大震災事例を通じてダークツーリズムの地域経済的観点について復習する。
8	アメリカのダークツーリズムの事例	アメリカのダークツーリズムの事例について学ぶ。(9.11 テロ)	復:アメリカにおけるダークツーリズムの事例について倫理的観点から復習する。
9	韓国のダークツーリズムの事例	韓国のダークツーリズムの事例について学ぶ。 DMZ (Demilitarized Zone)	予:DMZ 観光についてインターネット、記事などで事前に調べておくこと。
10	ダークツーリズムについての議論①	ダークツーリズムについてディスカッションを行う。	復：議論した内容を検討し、復習する。
11	ダークツーリズムについての議論②	ダークツーリズムについてディスカッションを行う。	復：議論した内容を検討し、復習する。
12	ダークツーリズムについての課題レポートを紹介	ダークツーリズムについての課題レポート内容について議論、今後の課題についての考察。	復：議論した内容を検討し、復習する。
13	ダークツーリズムを 3 つの観点	ダークツーリズムについて、教育的、倫理的、地域経済活性の観点からまとめる。	予:プレゼンテーションの準備をする。
14	プレゼンテーション①	ダークツーリズムについて議論した課題を踏まえ、教育的、倫理的、地域経済活性の観点から発表する。	復：発表の振り返りを行う。
15	プレゼンテーション②	ダークツーリズムについて議論した課題を踏まえ、教育的、倫理的、地域経済活性の観点から発表する。	復：発表の振り返りを行う。